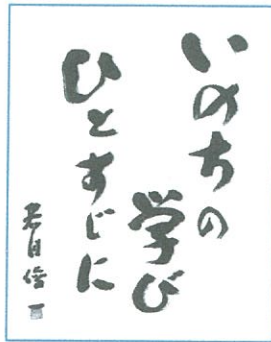


いのちの学び ひとすじに



村松さつき

今年には新型コロナウイルス感染症による社会の状況に応じた学校運営が求められ、本校の教育として大切にしてきた式典や行事が大きく様変わりしています。そのようななかで創立60周年を迎えましたが、看護専門学校はまさに大きな転換期に直面しています。

本校の使命は、長野県厚生連の医療活動を担う人材育成です。昨今の18歳人口の減少に加え、看護系大学の新規開設による大学進学志向が加速するなか、本校の志願者は減少傾向にあり、入学者確保のために様々な取り組みをし、何とか80名定員を確保している現状です。入学後には、厚生連事

業に関する理解や就職を意識できるような特徴的な学習や行事などに取り組みんでいます。

本校の特色ある教育内容として、地域における健診活動への参加や実験農場での農業体験などがあります。初代学校長である若月俊一先生が掲げた「『思いやりの看護』と『農村を守る』の実践教育こそがわが校の基本精神である」という言葉を基軸に、地域で生活する人々の生命と人権を尊重

できる人間形成をめざし、継承してまいりました。実践教育として佐久総合病院での臨地実習をはじめ、病院祭への参加やサークル活動での職員との交流を通して、基礎的な知識・技術・態度はもちろん、社会人になるべくノウハウを養うことができています。

現在、看護基礎教育は第5次カリキュラム改正に向けた準備段階にあります。国の掲げる地域医療構想の実現や地域包括ケアシステムの推進に向けた看護職者の育成機関として、時代のニーズ、地域のニーズを捉えた教育内容を構築していく必要があります。そのために、コミュニケーション

長野県厚生連 佐久総合病院
看護専門学校 副校長
村松さつき

能力向上のための教育やICTの活用、多職種連携教育など、地域で生活する人々を支えるために必要な学習内容の充実が求められています。そして、これまで

引き継いできた伝統を、教育内容や手法を模索しながら現代のニーズに応じた教育にするべく開拓をしていくことが重要であると考えています。本校は佐久総合病院と地域とのつながりを間近で学ぶことができる恵まれた環境にあります。これまで4,800余名の卒業生を輩出し、現在も多くの卒業生が各事業所で活躍しています。これからも、

将来の地域医療を担う看護師の育成に努めてまいります。



60周年を迎えたことを記念して（在校3年生集合写真）



創立以来60年間、多大なるご支援・ご指導をいただいております。長野県厚生連をはじめ、諸先輩、諸団体の皆さまに深甚なる感謝を申し上げます。今後におきましても何卒ご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

看護専門学校創立60周年を迎えて



第6代学校長(2020.4~)

渡辺 仁

1960年9月、佐久病院附属高等看護学院としてスタートした本校は、1977年に学校教育法

の一部改正により、現在の「佐久総合病院看護専門学校」という名称になりました。多くの優秀な看護師を輩出した本校も還暦を迎えました。これも今まで支えてくださった内外の皆さまのご理解とご支援の賜物であり、心より感謝申し上げます。今年4月から学校長という重責を担うことになりましたが、私も丁度還暦であり不思議な縁を感じております。

看護学校設立当時、看護師が非常に不足しており看護師確保が急務でしたが、もう一つ重要な目的は、佐久病院の目指す農村医療の

担い手を育成することになりました。『佐久病院史』(1999年、勁草書房)にも書かれています。 「専門的な知識と技術だけではなく、働く人たちに共感をもち自分の技術と学問に社会と人間の重みを感じるような新しい技術者」の育成が若月先生の願いでした。

人口減少、少子高齢化、そして格差拡大が進む社会は、COVID-19によってさらに混乱の度合いを深めています。ポストコロナの時代は、きつとそれまでの社会と変わっているでしょうし、変わらなければいけないと思います。

ただ私たちの仕事の基本は、face to face、どんな時代になっても人と触れ合うことしか成立しません。このような時代だからこそ、もう一度学校開設当時の精神に立ち返り、知識と技術だけではない「愛」ある看護師を育てていきたいと思えます。これからもどうぞよろしくお願いいたします。



第5代学校長(2013.4~2020.3)

伊澤 敏

昭和35年9月1日長野県厚生連の看護婦養成学校として、佐久総合病院高等看護学院が誕生。設立の目的は看護婦不足の解消および農村医療を理解し厚生連医療の担い手となる看護婦の養成でした。

その後、昭和52年4月に佐久総合病院看護専門学校と改称。開学以来看護師を養成する3年制の専門学校(昭和44年4月に併設され、平成22年3月に幕を閉じた二科は2年制)として今日に至ります。この間長野県厚生連を中心に送り出した卒業生は4,829名をかぞえ、県下の厚生連病院の看護を支える多くの有能な人材を輩出してまいりました。

初代学校長、若月俊一先生の教

えが随所に感じられる看護専門学校も時代の変化を受け、近年そのあり方を見直す必要に迫られてきました。時代の変化とは、医学・看護学の進歩に伴う知識の増大と教育内容の増大、そして看護師教育の大学化の流れです。厚生連本所に設けられた「看護専門学校あり方検討会議」の中では、まず4年制への移行の是非を検討。議論の結果、当校は3年制の専門学校としての特徴を生かしながら看護師教育を継続する方針となりました。加えて、協同組合の一員である厚生連の看護専門学校として、私たちはその礎にある精神を学び直す必要があります。戦争の記憶が薄れ、格差が拡大する時代背景のなか、私たちには、いのちをまもる医療・看護の大切さを改めて自覚し、日々の実践を続けることが求められているのです。

若月イズムに

戻って

同窓会 会長 永井久子
(元 三才山病院 看護部長)



佐久看護専門学校開校60周年おめでとうございます。同窓会を代表し一言お祝い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、卒業式・入学式など集団での行事はすべて縮小され、授業や実習なども今までとは違う環境下になってしまっていることは、とても残念でなりません。これらは看護学校生活において、クラスの仲間との思い出や感動の場面がたくさん作れる時でもあります。しかしながら、そんな大変な時期ですが、看

護師を目指す学生として、今自分が何をしなければいけないかを考え、このコロナウイルス禍においても初期の目標を見失うことなく、目標に向かって突き進んでいってください。

私が佐久看護専門学校を卒業し、早42年が経ちます。若月先生の「農民とともに」の「地域医療」に憧れ、佐久看護専門学校を選びました。本当の意味での「地域医療」を知ったのは、学校を卒業し厚生連病院に就職してからのことです。学校の授業の中に農村医療を学ぶ時間はありませんが、あまり真面目に聞いていなかったのが本音です。病院に勤め、患者さんを目の当たりにすることで、病気を患った病人だけを診るのではなく、その人を取り巻く環境すべてを含めた広い視野で患者さんを診ることの必要性を感じました。若月

先生のことばである「いのちの学びひとすじに」の中には、看護というものは何なのかを問われたときに、やはり患者さんにやさしくすること、「患者本位」の看護ができることこそがその本質であるべきだということ

思いが込められています。みなさんが看護師を目指そうと思った動機はさまざまかもしれませんが、「人に感謝されるから」と答える人もいると思います。人に感謝されるには、感謝されるだけの人間性を持ち合わせなければなりません。もちろん技術も大事ですが、人としての社会性を兼ね備えた知識と広い視野を持つことが大切だと思います。この3年間の学びのなかで、その人間性を養ってくたさい。それができるのが、佐久看護専門学校だと私は思います。そして何より根底にあるのが「若月イズム」

だと思えます。

※「現代に生きる若月俊一のことば」(2014年、家の光協会)

60年を経た 現在の在校生活

59期生(3年生) 依田恵佳



佐久総合病院看護専門学校に入学してから約2年半が経とうとしています。入学したばかりの時は、想像を超える勉強量に驚き、授業やテストを乗り越えることに精一杯でしたが、病院長や看学祭などの行事で地域の方や他学年との交流ができ、大切な思い出もたくさんできました。2年生になると本格的な実習が始まり、さらに大変な日々でしたが、辛い時に周りを見る

といつも傍で一緒に頑張る仲間がいてくれたため、乗り越えることができました。そして3年生になり領域別実習が始まった矢先、新型コロナウイルスの影響で臨床での実習が行えなくなり、学内実習となりましたが、先生の支えや協力があり、たくさんのことを学ぶことができました。その後、臨床での実習が再開し、患者さんとの関わりや、指導者さんからご指導をいただくなかで、臨床だからこそ学べることがあることも実感しました。創立60年ということに大きな喜びを感じています。多くの先輩方が築いてこられた歴史と伝統のある本校で学べることに誇りを持ち、地域の皆さまに信頼していただける看護師になれるよう日々努力していきたいと思います。

佐久総合病院看護専門学校 60年のあゆみ

年	主な動き	学校長	教務主任 副学校長(専任)	副学校長 (兼任)	
昭 和	35年 9月	若月俊一	○教務主任 三浦徳子	山田貞一・神岡芳雄	
	36年 11月				佐久総合病院高等看護学院開校 第1期生14名入学(臼田小学校校舎借用)
	37年 2月				看護婦養成所の指定(厚生大臣)
	38年 10月				私立各種学校の認可(県知事)
	43年 4月				現在地に移転(旧中部中学校跡地)
	44年 3月				第一次カリキュラム改正
	44年 4月				学生寮(1号館)が完成
	45年 9月				第二科1期生30名入学
	46年 4月				学校創立10周年(若月学校長記念講演)
	46年 4月				専任教員の臨床指導担当者設置
	50年 4月				校舎増改築工事完成 新校舎移転
	50年 10月				あゆみ寮(2号館)が完成
	52年 3月				私立専修学校(医療専門課程)の認可(県知事)
	52年 4月				佐久総合病院看護専門学校に名称変更
54年 4月	実験農場実習開始				
55年 9月	学校創立20周年(記念行事)	見玉千秋			
60年 9月	学校創立25周年(記念行事)				
62年 7月	佐久総合病院老人保健施設の実習開始				
元年 4月	在宅看護実習開始				
2年 4月	第二次カリキュラム改正				
3年 4月	講堂兼体育館が完成				
4年 3月	あゆみ寮(3号館)が完成				
9年 4月	第三次カリキュラム改正				
10年 3月	若月俊一学校長退任				
10年 4月	松島松翠学校長就任				
11年 3月	松島松翠学校長退任				
11年 4月	清水茂文学校長就任 専任副学校長制度導入				
12年 9月	学校創立40周年(記念行事)				
12年 12月	40周年記念碑建立				
15年 5月	清水茂文学校長退任				
15年 6月	夏川周介学校長就任				
21年 4月	第四次カリキュラム改正				
22年 3月	第二科閉科				
22年 9月	学校創立50周年(記念行事)				
25年 3月	夏川周介学校長退任				
25年 4月	伊澤敏学校長就任				
26年 1月	鹿教湯三才山リハビリテーションセンター 鹿教湯病院実習開始				
平 成	元年 4月	松島松翠	小須田禾子 土屋 薫	町田拓也・河野和幸	
	2年 4月				第二次カリキュラム改正
	3年 4月				講堂兼体育館が完成
	4年 3月				あゆみ寮(3号館)が完成
	9年 4月				第三次カリキュラム改正
	10年 3月				若月俊一学校長退任
成 令	10年 4月	清水茂文	○副学校長(専任) 土屋 薫	渡辺俊一	
	11年 3月				松島松翠学校長退任
	11年 4月				清水茂文学校長就任 専任副学校長制度導入
	12年 9月				学校創立40周年(記念行事)
	12年 12月				40周年記念碑建立
	15年 5月				清水茂文学校長退任
	15年 6月				夏川周介学校長就任
	21年 4月				第四次カリキュラム改正
	22年 3月				第二科閉科
	22年 9月				学校創立50周年(記念行事)
25年 3月	夏川周介学校長退任				
25年 4月	伊澤敏学校長就任				
26年 1月	鹿教湯三才山リハビリテーションセンター 鹿教湯病院実習開始				
令 和	2年 3月	伊澤 敏	飯塚千鶴子 村松さつき	松田正之 三石俊美	
	2年 4月				伊澤敏学校長退任
	2年 4月				渡辺仁学校長就任
	2年 5月				新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行拡大により授業一時停止
	2年 5月				COVID-19感染防止対策としてオンライン授業開始
	2年 6月				体育館講堂を利用するなど感染対策のもと段階的に授業再開
2年 9月	学校創立60周年				



開校当時



旧中部中学校校舎1棟



実習室での技術演習風景(昭和55年頃)



時を刻む記念碑



体育館講堂で講義を受ける様子